大　使　館　情　報

2022 年 2 月

【目次】

１．ブラジル・マクロ経済情勢
（１）経済情勢
（２）経済政策等
（３）金融政策
（４）為替市場
（５）株式市場

２．ブラジル政治情勢
［内政］
（１）ボルソナーロ政権の支持率
（２）ボルソナーロ大統領の入院と退院
（３）賃上げを求めた公務員による抗議活動
（４）2022 年選挙日程の公表

［外交］
（１）伯米外相電話会談の実施
（２）ボルソナーロ大統領によるスリナム訪問
（３）モウラォン副大統領の PROSUL 首脳会合参加
（４）伯ペルー外相会談

３．トピックス
（１）ブラジル連邦共和国における洪水被害に対する緊急援助（供与物資の引渡し）
（２）林大使のサンパウロ市訪問（2022 年 1 月 26～28 日）

４．大使館からのお知らせ
（１）文化イベント
（２）外務省海外安全ホームページ
（３）ブラジル渡航情報

１．ブラジル・マクロ経済情勢

（１）経済情勢（1 月発表の経済指標）※貿易収支は 2 月発表。

（ア）11 月の鉱工業生産指数は前月比▲0.2%、前年同月比▲4.4%となった。

（イ）11 月の小売売上高は前月比+0.6%、前年同月比▲4.2%となった。

（ウ）12 月の拡大消費者物価指数（IPCA）は前月比+0.73%となり、前月（+0.95%）から上昇幅は 0.22%ポイント縮小。2021 年通年では+10.06%と、2015 年（10.67%）以来の 10%台となった。

（エ）失業率（2021 年 9～11 月）は 11.6%となり、３か月前（6～9 月）の移動平均 13.1%から 1.5%ポイント低下した。また前年同期比（2020 年 9～11 月）の 14.4%から 2.8%ポイント低下した。

（オ）2022 年 1 月の貿易収支は 1.76 億ドルの赤字。

（カ）伯中央銀行が週次で発表しているエコノミスト等への調査（Focus 調査）について、1 月 28 日時点で、GDP 成長率予測については、2022 年は 0.3%（前週から 0.01%ポイント上昇）で、2023 年は 1.55%（前週から 0.14%ポイント低下）となった。インフレ率については、2022 年は 5.38%（前週から 0.23%ポイント上昇）で、2023 年は 3.50%（前週から 0.1%ポイント上昇）となった。

（２）経済政策等

（ア）1 月 21 日、大統領は 2022 年予算法案を裁可。プライマリーバランスは 793 億レアルの赤字となる見込み。

（イ）2021 年の公的部門におけるプライマリーバランスは 647 億レアル（対 GDP 比 0.75%）の黒字となった。プライマリーバランスが黒字となるのは 2013 年以来で初。

（３）金融政策

次回伯中央銀行金融政策委員会（Copom）は 2 月 1 日及び 2 日に開催。

（４）為替市場（レートは伯中銀の公表値）

（ア）1 月の為替市場は 5.36～5.70 レアル/ドルで推移。

（イ）月の前半は 5.52～5.70 レアル／ドルで推移。インフレ上昇幅の落ち着きや良好な経済指標等を背景に概ねレアル高傾向で推移した。

（ウ）月の後半は 5.52～5.36 レアル／ドルで推移。地政学的リスクの高まりによるレアル安となる展開もあったものの、ルーラ元大統領の発言（中道右派との連立の可能性に言及）等を好感したほか、新興国市場への資本流入もみられ、概ねレアル高で推移した。

（５）株式市場

（ア）1 月の株式市場は 101,006～112,612 ポイントで推移。

（イ）月の前半は 101,006～106,928 ポイントで推移。鉄鉱石価格の上昇等を背景に概ね上昇傾向となった。

（ウ）月の後半は 106,374～112,612 で推移。月前半に引き続き鉄鉱石や原油価格の上昇や新興国市場への資本流入もみられ等を背景に概ね上昇傾向となった。。

２．ブラジル政治情勢（1 月の出来事）

【内政】

（１）ボルソナーロ政権の支持率

1 月 27 日、XP/IPespe 社が 1 月 24 日から 25 日にかけて 1 千人を対象に実施した世論調査の結果を発表した。ボルソナーロ政権の評価に関する回答結果は次のとおり。

「非常に良い/良い」：23%、「普通」:23%、「悪い/非常に悪い」:55%。

（２）ボルソナーロ大統領の入院と退院

1 月 3 日未明よりボルソナーロ大統領は腸閉塞のためサンパウロ市内の病院に入院した。その後、5 日午前に退院した。

（３）賃上げを求めた公務員による抗議活動

1 月 18 日、国家公務員は一律 28.15%の賃上げを要求すべく、午前と午後に抗議活動を行った。同抗議活動は、歳入庁、中央銀行、外交官も含めて 29 種類の国家公務員が加わったとされる。抗議活動による交通への影響は無く、乱闘等も見られなかった。

（４）2022 年選挙日程の公表

1 月 6 日、選挙高等裁判所は 2022 年の選挙日程を公表した。主な日程は次のとおり。

・4 月 1 日：候補者の入党期日

・4 月 2 日：現職の大統領・閣僚・知事、市長などが出馬する場合、再選を目指す場合を除き、要辞任

・8 月 15 日：候補者登録申請の期日

・8 月 16 日～10 月 1 日：選挙キャンペーンの実施

・10 月 2 日：投票日

・10 月 30 日：決選投票日（決選投票が必要な場合）

【外交】

（１）伯米外相電話会談の実施

1 月 10 日及び 30 日、伯米外相電話会談が実施された。両会談において、ウクライナ情勢が議論された。1 月 30 日の会談につき、伯外務省は、両外相が本危機に対する緊張の緩和及び外交的解決の必要性について同意し、そのプロセスにおける国連安保理の重要性も再認識したと公表した。

（２）ボルソナーロ大統領によるスリナム訪問

1 月 20 日、ボルソナーロ大統領は、スリナムを公式訪問した。首脳会談では、安全保障・防衛、インフラ、エネルギー、貿易、環境といった分野における二国間協定について協議がなされた。会談の終わりには、両国首脳による共同声明への署名もなされた。

（３）モウラォン副大統領の PROSUL 首脳会合参加

1 月 27 日、モウラォン副大統領は、コロンビアで開催された PROSUL 首脳会合に参加した。同首脳会合の演説において、モウラォン副大統領は、民主主義、法の支配及び人権の擁護における伯のコミットメントについて再確認した。

（４）伯・ペルー外相会談

1 月 27 日、フランサ外相は、コロンビアで開催された PROSUL のマージンにて、マウルトゥア・ペルー外相と会談した。両国の外相は、特にインフラ分野での協力、ビジネス、自然災害復興及びパンデミック対策における共同の取り組み等について協議した。。

３．トピックス

（１）ブラジル連邦共和国における洪水被害に対する緊急援助（供与物資の引渡し）

1 月 27 日、ビラコポス空港において、ブラジル連邦共和国における洪水被害に対する我が国政府による緊急援助物資（テント 300 張、毛布 3000 枚及びプラスチックシート（50m×4m）75 巻）の供与式が行われた。これは、我が国政府が、人道的観点及びブラジル連邦共和国との友好関係に鑑み、被災者の方々を支援すべく国際協力機構（JICA）を通じた緊急援助の実施を決定したことを受けたもの。同式典には、日本側から林禎二駐ブラジル大使等、ブラジル側からジョアン・ローマ市民大臣等が出席し、各出席者が物資の引渡しを確認する文書に署名を行った。

同式典で林大使は、「ブラジルにおいて発生した洪水がブラジルにもたらした

甚大な被害に関し、ブラジル政府及び国民に対して心よりお見舞いを申し上げます。今回の洪水被害を受けて、我が国は JICA を通じた緊急援助物資（テント・毛布・プラスチックシート）の供与を決定し、物資がブラジルに到着しました。緊急援助物資が、日本国民のブラジル国民との連帯の証として、被災者の皆様に少しでも役に立つことを望んでいます。」と挨拶。ジョアン・ローマ市民大臣からは「日本政府からブラジル政府へのこの緊急援助物資の供与は、長年に渡る両国の協力関係を更に強化するものであり、改めて深い感謝を申し上げます。また、私は今朝、ボルソナーロ大統領と会談をし、ボルソナーロ大統領から、日本の緊急援助物資の供与に対する感謝の意を預かってきております。この場を借りてお伝えさせていただきます。」と発言。

今回供与された緊急支援物資は、ブラジル地域開発省国家災害リスク管理センターによりバイーア州及びミナスジェライス州の被災者の方々に届けられる予定。

緊急支援物資

供与したテントの中で握手する林大使とローマ市民大臣

（２）林大使のサンパウロ市訪問（2022 年 1 月 26～28 日）

1 月 26～28 日の間、林大使はサンパウロ市を訪問。

イビラプエラ公園内に設置された開拓先没者慰霊碑への献花や霊廟参拝、日本館への訪問。また、サンパウロの有力若手日系人との懇談や日系５団体代表者との意見交換をはじめ、日本メディア特派員との懇談、ブラジル日報編集部への訪問、サンパウロ文協主催の新年会兼大使歓迎会へ参加した。さらに、ジャパン・ハウス　サンパウロ（JHSP）への訪問、JETRO サンパウロ事務所、国際交流基金サンパウロ日本文化センター及び JICA ブラジル事務所の関係者と意見交換を行った他、ブラジル日本商工会議所を訪問し、村田会頭をはじめとした関係者と、日伯経済関係に関し意見交換を行った。

サンパウロ州工業連盟（FIESP）への訪問では、ジョズエ・ゴメス会長等と日伯経済関係について、ヌネス・サンパウロ市長を表敬訪問した際には、日本とサン

パウロ市の友好関係及び JICA を通じた日伯の協力等について意見交換を行った。また、駐米大使、駐英大使などを歴任し、現在、国際関係・通商研究機関（IRICE）の所長を務めるルーベンス・バルボーザ大使と懇談し、日伯の更なる協力の可能性等に関し意見交換を行った。

その他、サンタクルス日本病院や日伯援護協会のリベルダーデ医療センターへの訪問では、JICA を通じた支援の活用についての説明等を受けた。

日系 5 団体代表者との懇談

ヌネス SP 市長との懇談

ルーベンス・バルボーザ大使との懇談

ブラジル日本商工会議所関係者との懇談

4. 大使館からのお知らせ

（１）文化イベント

（ア）東北伯の日本人移住の記録（オンライン）（在レシフェ総領事館）

日時：2 月 19 日（土）及び 2 月 26 日（土）：19 時～

場所：https://www.youtube.com/channel/UCecrQYbneg-IW65EAzXR1OQ

内容：コロナ禍が始まって以来、様々なオンライン事業を牽引してきたサルバドール日伯文化協会（ANISA）が、2 回に分けて、東北伯に散在する日系 17 団体の移住の歴史を発表する。

（イ）天皇誕生日祝賀ビデオ（在ブラジル大使館）

日時：2 月 23 日（水）：19 時～

場所：在ブラジル大使館 YouTube チャンネル及び Facebook

内容：林大使の他、伯側要人によるメッセージや日本紹介動画を配信予定。

（ウ）天皇誕生日レセプション（在クリチバ総領事館）

日時：2 月 23 日（時間未定）

場所：在クリチバ総領事公邸／クリチバ総 SNS チャンネル

内容：特別記念動画を配信予定。対面式のイベントは今後の感染状況を踏まえ検討します。

（２）外務省　海外安全ホームページ

（ア）各国の危険情報や安全対策等海外赴任、出張及び旅行をする際の留意点を公開している。

http://www.anzen.mofa.go.jp/

（イ）世界各国の在外邦人に対して最低限必要な安全対策を周知することを目的にした「ゴルゴ１３の中堅・中小企業向け海外安全対策マニュアル」を公開している。2021 年３月、新型コロナウイルス感染症の感染症とテロといった複合的なリスクへの対処の必要性を伝えるため、番外編として「感染症流行下の安全対策」を追加する増補版を公開した。

https://www.anzen.mofa.go.jp/anzen_info/golgo13xgaimusho.html

（ウ）各在伯公館が「在外邦人向け安全の手引き　ブラジル」を作成し公開している。

https://www.anzen.mofa.go.jp/manual/brazil_manual.html

（エ）各公館で四半期毎に「海外安全対策情報」を公開している。在伯大使館の情報（令和３年度第３四半期）は以下のリンク先から。

https://www.br.emb-japan.go.jp/itpr_ja/kaigai_anzen_taisaku.html

（３）ブラジル渡航情報

（ア）危険情報

最新更新日：2020 年６月 25 日

http://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_259.html

以下の地域が「レベル１：十分注意してください。」となっている。

・ブラジリア連邦区
・サンパウロ州大サンパウロ圏及びカンピーナス市
・リオデジャネイロ州大リオ圏
・アマゾナス州大マナウス圏
・ロライマ州北部
・パラー州大ベレン圏
・ペルナンブコ州大レシフェ圏
・バイーア州大サルバドール圏
・セアラ州大フォルタレーザ圏
・エスピリトサント州大ビトリア圏
・パラナ州大クリチバ圏
・リオ・グランデ・ド・スル州ポルトアレグレ市

（イ）安全対策基礎データ

最新更新日：2020 年８月６日

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure_259.html

主要各州、都市毎の犯罪発生状況、防犯対策及び滞在時の留意事項等に加え、査証、出入国審査及び新型コロナウイルス関連情報や大使館、総領事館の緊急連絡先を公開している。

（ウ）テロ・誘拐情勢

最新更新日：2019 年６月 10 日

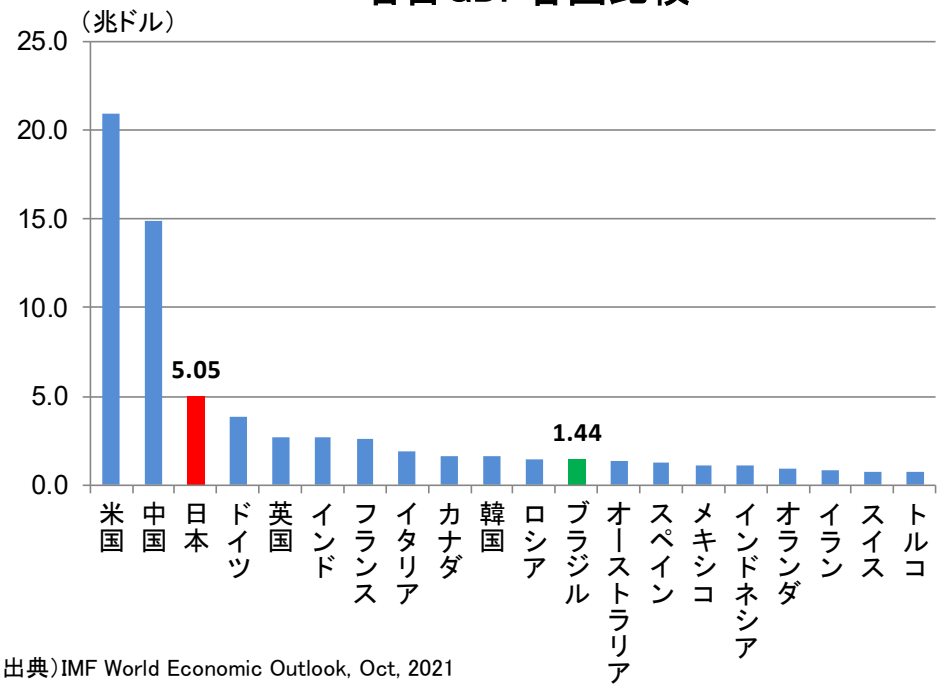
https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror_259.html

ブラジル経済・二国間経済関係概観

Ⅰ．経済構造

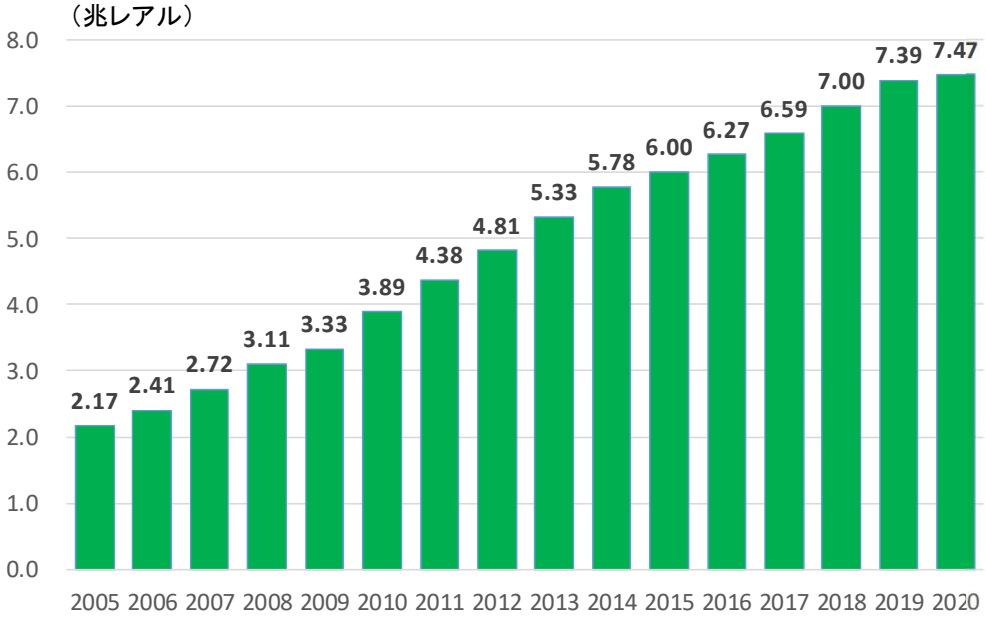
1. 人口約2億1,176万人、面積約851万km²（2020年）
2. 世界第12位の経済規模（名目GDP約1兆4,447億ドル（2020年）：日本の約29%）。一人当たりGDP（約6,823ドル（2020年））は、日本の約17%。
3. 世界有数の農業・資源国であるが、産業別国内総生産（GDP）額では第三次産業（サービス業）が高いウェイトを占めている。
4. GDPを需要項目別でみると、家計消費や総固定資本形成（投資）といった内需が成長に寄与している。

名目GDP各国比較



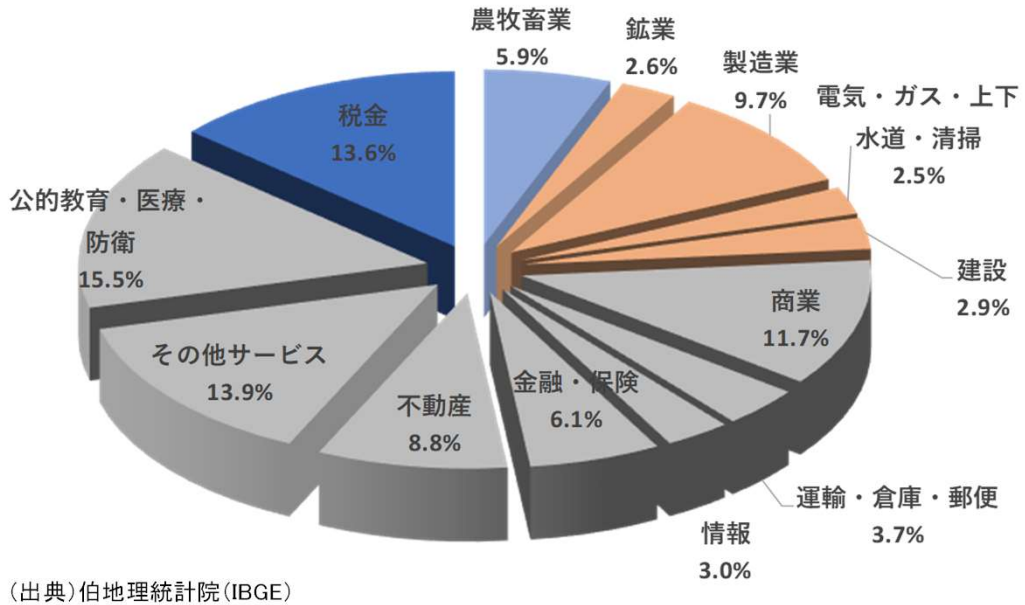
（出典）IMF World Economic Outlook, Oct, 2021

名目GDPの推移



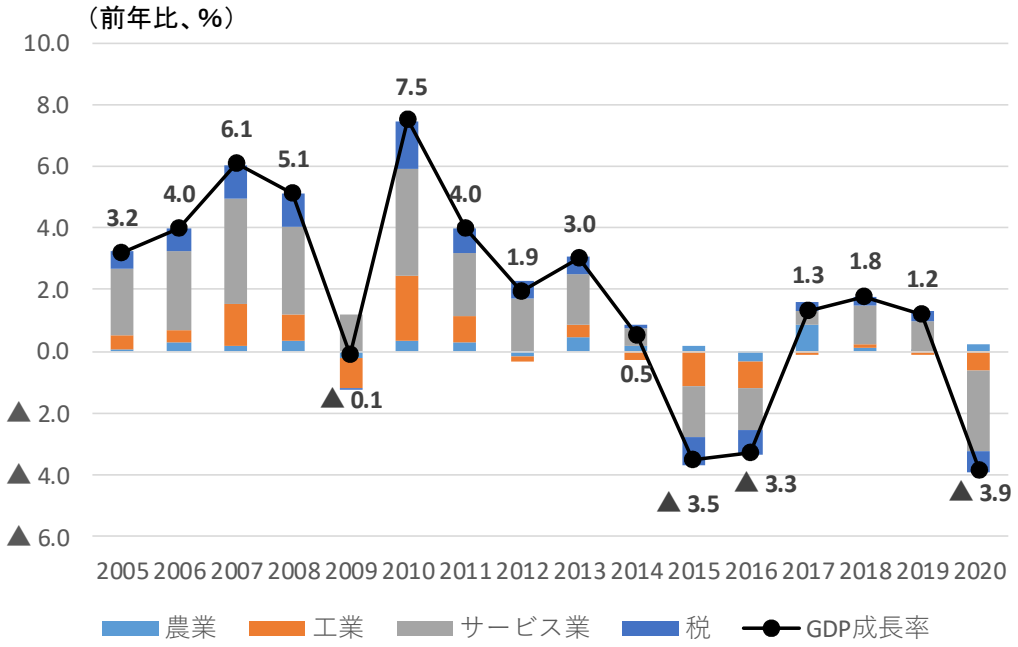
（出典）伯地理統計院（IBGE）

名目GDPの産業別構成比（2020年）



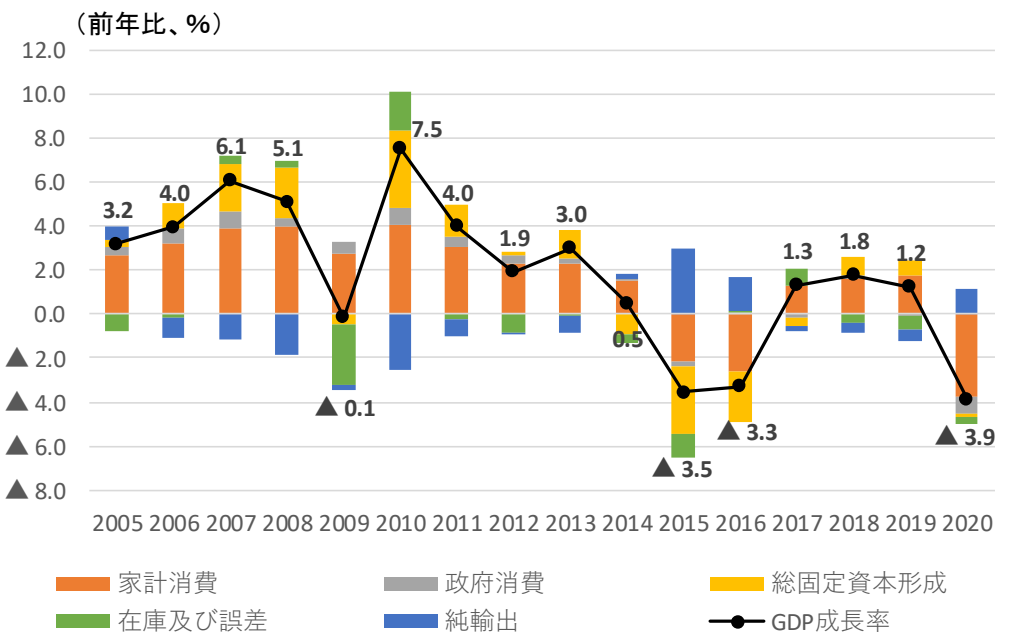
（出典）伯地理統計院（IBGE）

実質GDP成長率と産業別寄与度の推移（暦年）



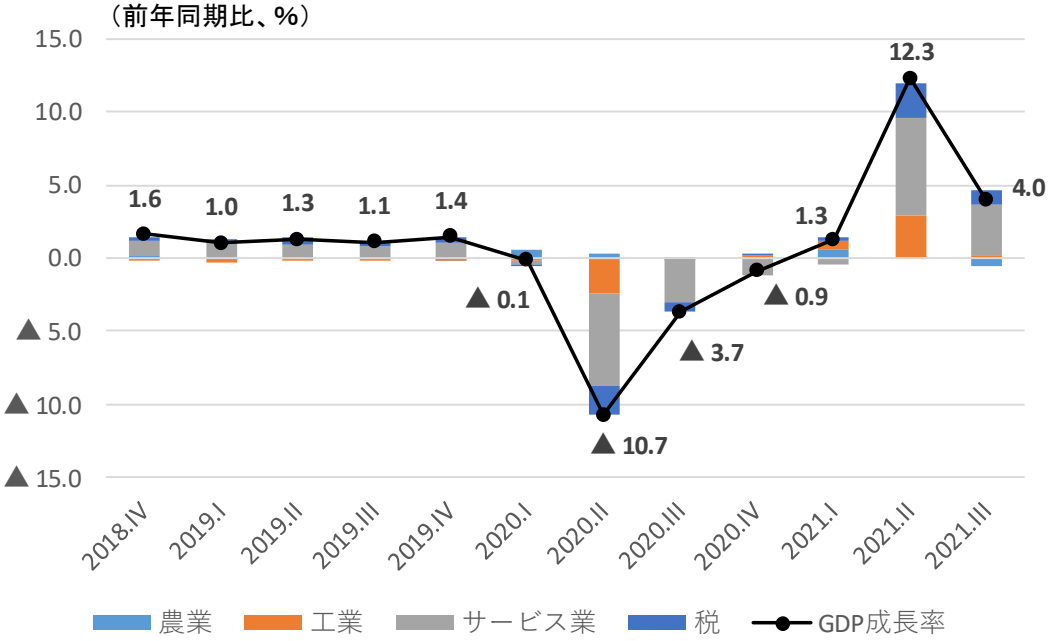
（出典）伯地理統計院（IBGE）、産業別寄与度はIBGE公表値から当館にて試算

実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移（暦年）



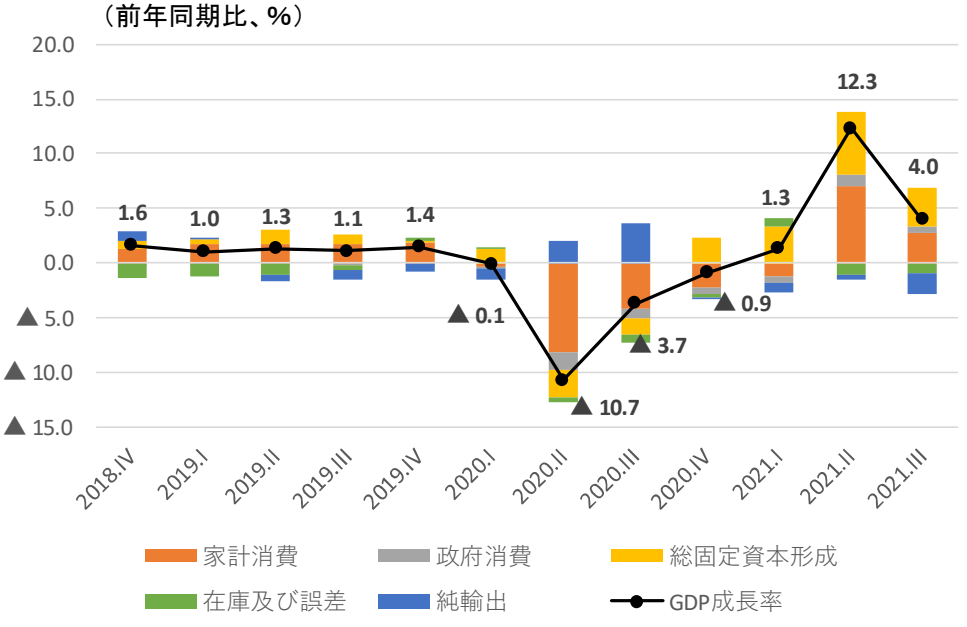
（出典）伯地理統計院（IBGE）
※需要項目別寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、在庫及び誤差はGDP全体から各需要項目を除したもの

実質GDP成長率と産業別寄与度の推移（四半期）



（出典）伯地理統計院（IBGE）、産業別寄与度はIBGE公表値から当館にて試算

実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移（四半期）



（出典）伯地理統計院（IBGE）
※需要項目別寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、在庫及び誤差はGDP全体から各需要項目を除したもの

II. 経済の現状

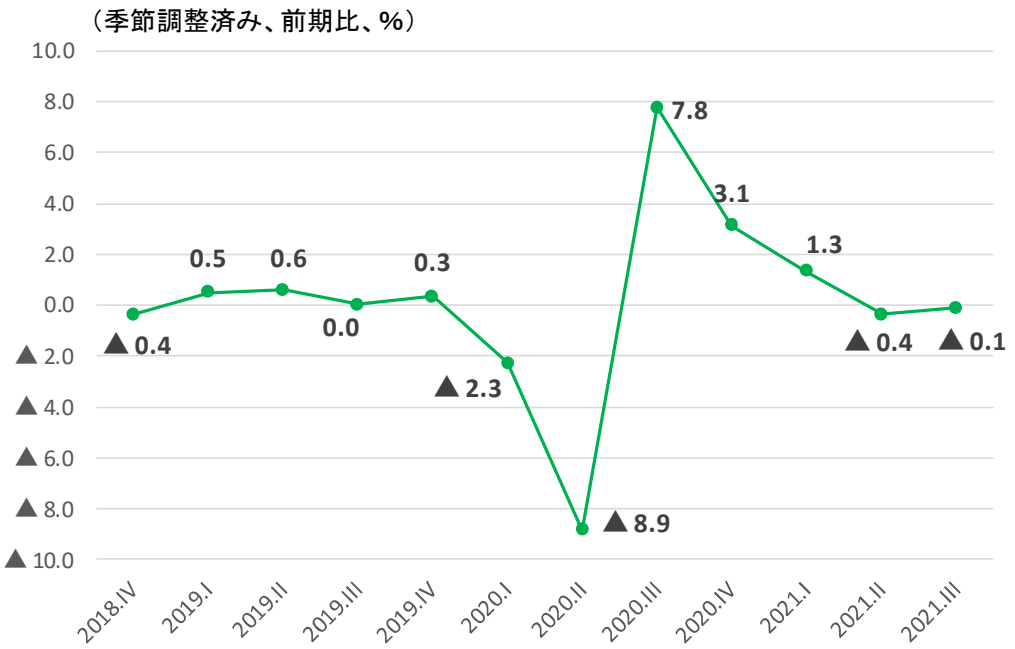
ブラジル地理統計院（IBGE）が12月に発表した2021年第3四半期のGDP成長率は、前期比▲0.1%（2四半期連続のマイナス成長）、前年同期比＋4.0%（3四半期連続のプラス成長）となった。

（%、括弧内の数値は寄与度）

		前期比（季調済）		前年同期比（原数値）	
実質GDP		▲ 0.1		4.0	
産業別	農業	▲ 8.0	(▲ 0.6)	▲ 9.0	(▲ 0.6)
	工業	0.0	(▲ 0.0)	1.3	(0.2)
	鉱業	▲ 0.4	(▲ 0.0)	3.5	(0.0)
	製造業	▲ 1.0	(▲ 0.1)	▲ 0.7	(▲ 0.1)
	電気、ガス、水道	▲ 1.1	(▲ 0.0)	▲ 4.6	(▲ 0.1)
	建設業	3.9	(0.2)	10.9	(0.5)
	サービス業	1.1	(0.7)	5.8	(3.5)
	商業	▲ 0.4	(▲ 0.0)	2.8	(0.2)
	運輸、倉庫、郵便	1.2	(0.0)	13.1	(0.3)
	情報、通信	2.4	(0.1)	14.8	(0.6)
	金融、保険	▲ 0.5	(▲ 0.1)	▲ 1.3	(▲ 0.2)
	不動産	0.0	(▲ 0.0)	1.7	(0.2)
	その他サービス業	4.4	(0.5)	13.5	(1.5)
	公共サービス	0.8	(0.1)	2.9	(0.4)
需要項目別	家計消費	0.9	(0.6)	4.2	(2.8)
	政府消費	0.8	(0.1)	3.5	(0.6)
	総固定資本形成	▲ 0.1	(▲ 0.0)	18.8	(3.4)
	輸出（財・サービス）	▲ 9.8	(▲ 1.5)	4.0	(0.6)
	輸入（財・サービス）	▲ 8.3	(▲ 1.2)	20.6	(2.4)
	純輸出（財・サービス）	-	(▲ 0.3)	-	(▲ 1.9)

（出典）伯地理統計院（IBGE）
産業別及び需要項目別寄与度はIBGE公表値から当館にて試算したもの。

実質GDP成長率の推移（四半期）



（出典）伯地理統計院（IBGE）

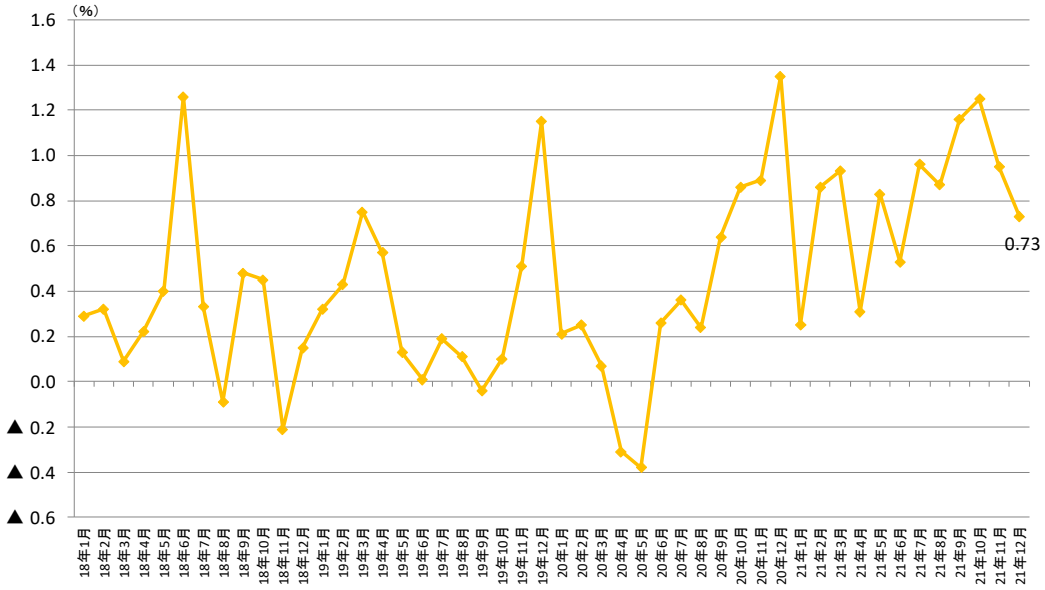
≪各機関によるGDP成長率見通し≫

	2021	2022	2023
IMF（2022年1月）	+4.7%	+0.3%	+1.6%
伯経済省（2021年11月）	+5.1%	+2.1%	2.5%
伯中銀（2021年12月）	+4.4%	+1.0%	–
伯中銀Focus（2021年1月28日）	–	+0.3%	+1.55%

物価の動向

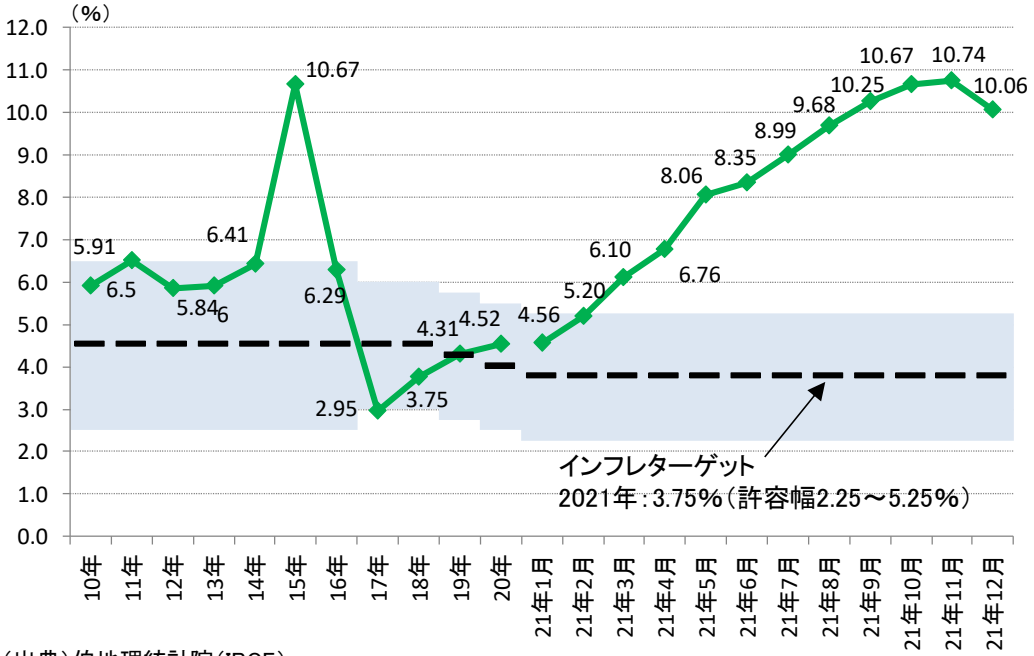
12月の拡大消費者物価指数（IPCA）は前月比+0.73%、直近12か月累計では10.06%となった。

拡大消費者物価指数（IPCA）上昇率の推移（各月）



（出典）伯地理統計院（IBGE）

拡大消費者物価指数（IPCA）上昇率の推移（12か月累計）

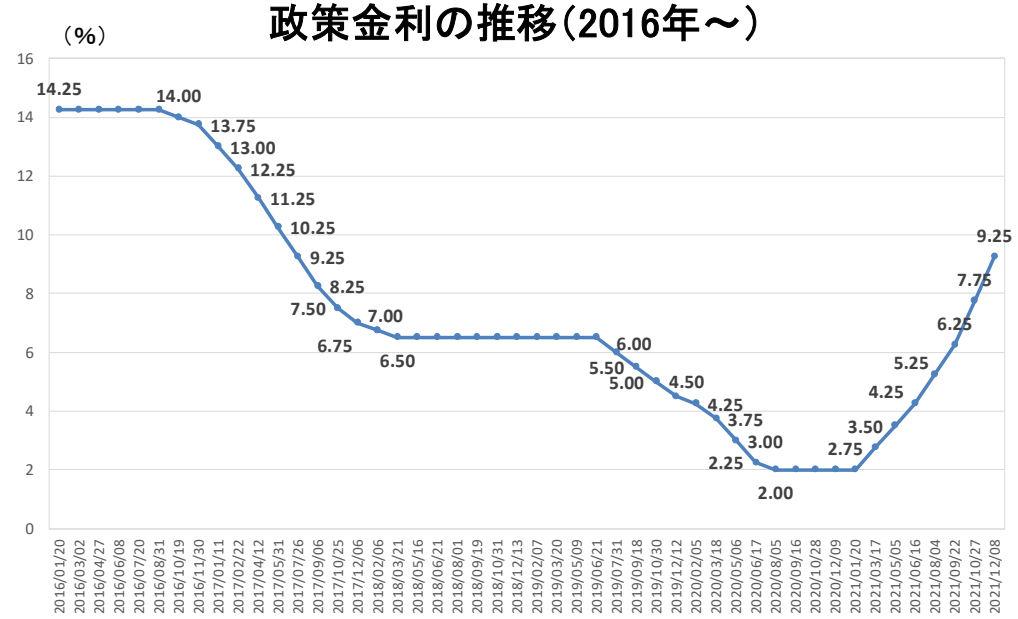


（出典）伯地理統計院（IBGE）

政策金利

次回伯中央銀行金融政策委員会（Copom）は2月1日及び2日に開催。

政策金利の推移（2016年～）

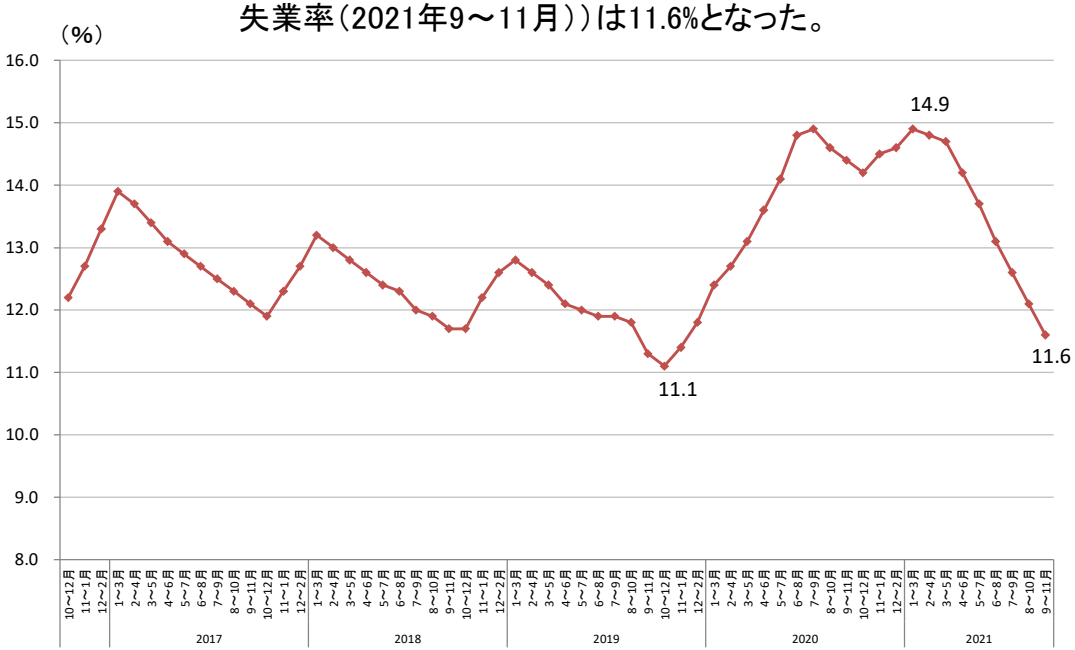


（出典）伯中央銀行

労働市場、消費、生産、財政収支の動向

失業率の推移（3か月移動平均）

失業率（2021年9～11月））は11.6%となった。



（出典）伯地理統計院（IBGE）

小売売上高指数の推移（月次）

小売売上高（11月）は前月比+0.6%、前年同月比▲4.2%となった。

（出典）伯地理統計院（IBGE）

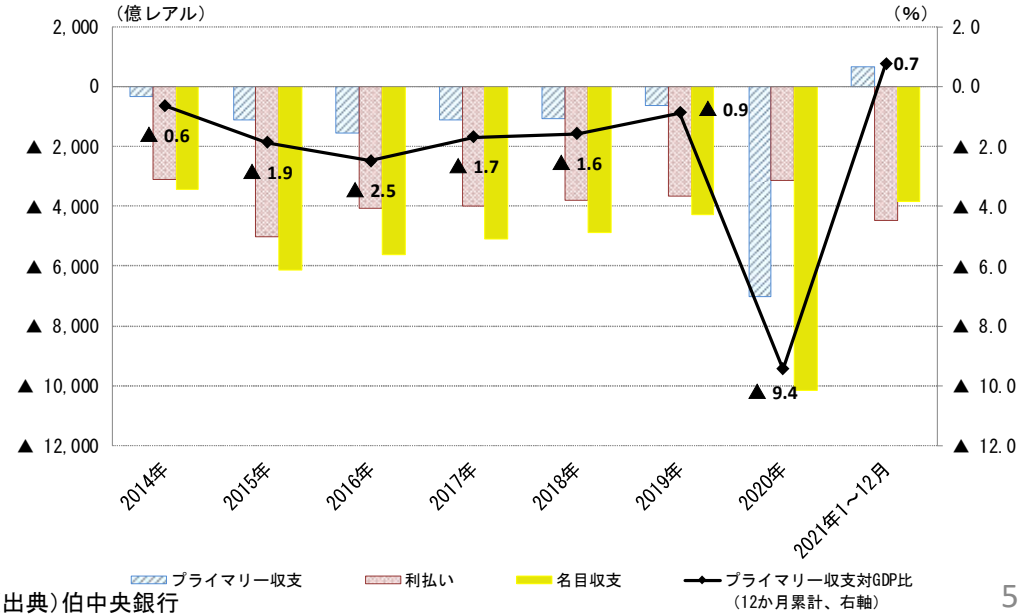
鉱工業生産指数の推移（月次）

鉱工業生産（11月）は前月比▲0.2%、前年同月比でも▲4.4%となった。

（出典）伯地理統計院（IBGE）

財政収支の推移

公的部門の2021年のプライマリーバランスは+647億レアル（2013年以来の黒字）、利払いは▲4,480億レアル、名目収支は▲3,837億レアルとなった。



（出典）伯中央銀行

国際収支の動向

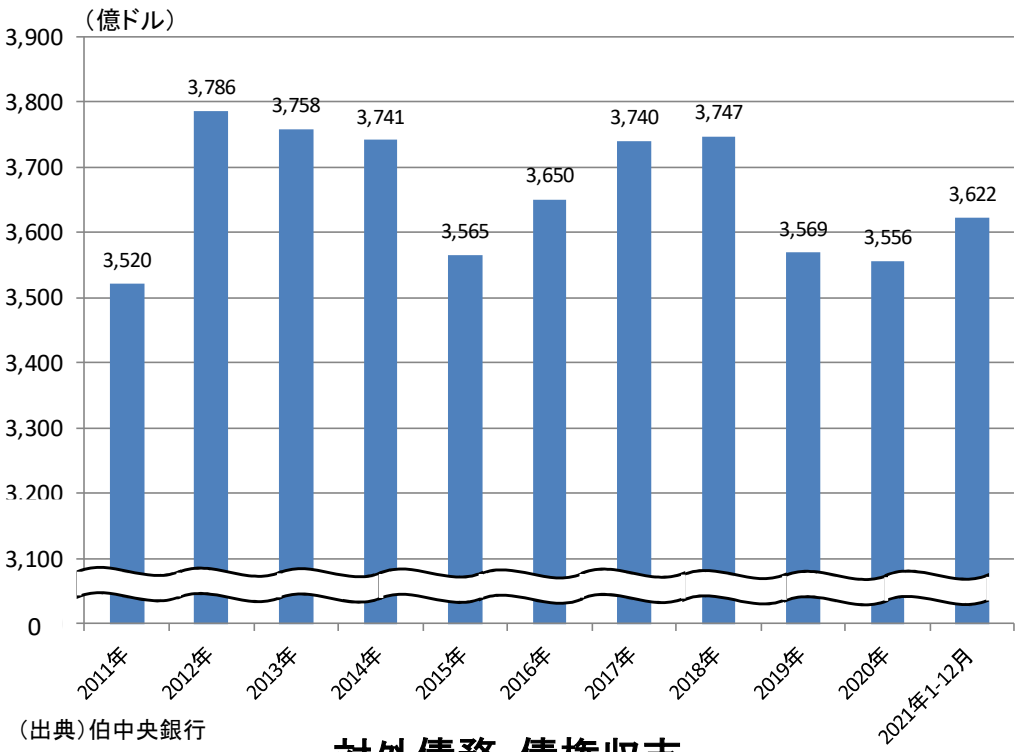
国際収支

（億ドル）

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年 1-12月
経常収支	▲ 245	▲ 220	▲ 515	▲ 650	▲ 245	▲ 281
貿易収支	445	573	434	265	324	362
サービス収支	▲ 306	▲ 383	▲ 360	▲ 355	▲ 209	▲ 171
第1次所得収支	▲ 415	▲ 432	▲ 588	▲ 573	▲ 383	▲ 505
第2次所得収支	31	21	▲ 0	12	23	33
資本移転収支	3	4	4	4	41	2
金融収支	▲ 161	▲ 171	▲ 523	▲ 644	▲ 125	▲ 326
直接投資	▲ 596	▲ 475	▲ 761	▲ 464	▲ 413	▲ 273
対外直接投資	147	213	20	228	▲ 35	192
対内直接投資	743	689	782	692	378	464
証券投資	200	177	69	192	129	▲ 55
金融派生商品	▲ 10	7	28	17	54	▲ 10
その他投資	152	69	113	▲ 128	247	▲ 128

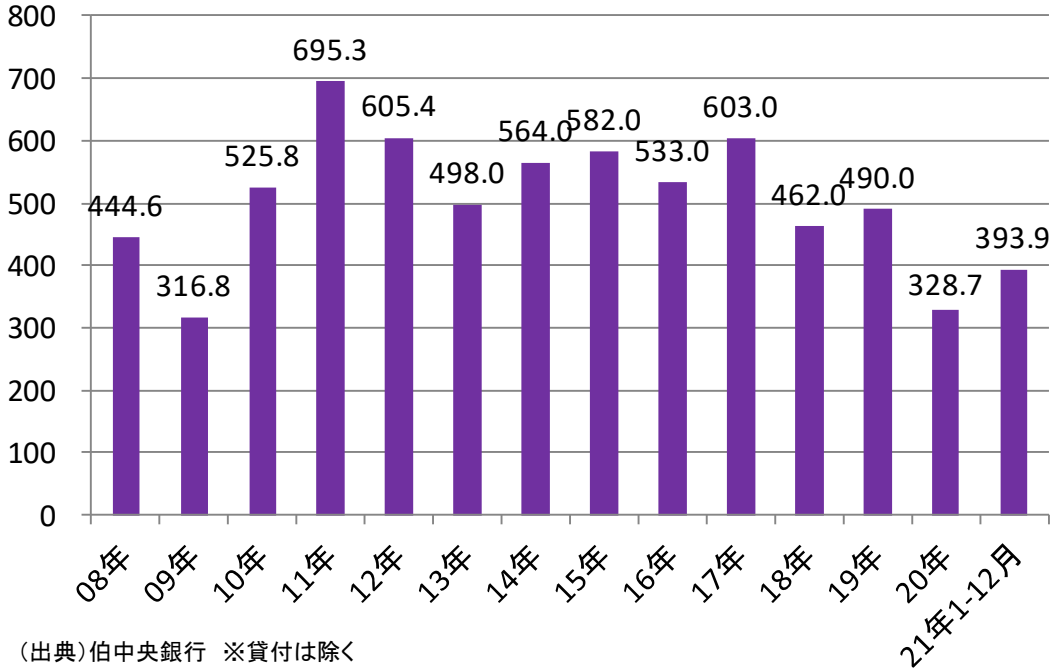
（出典）伯中央銀行

外貨準備高



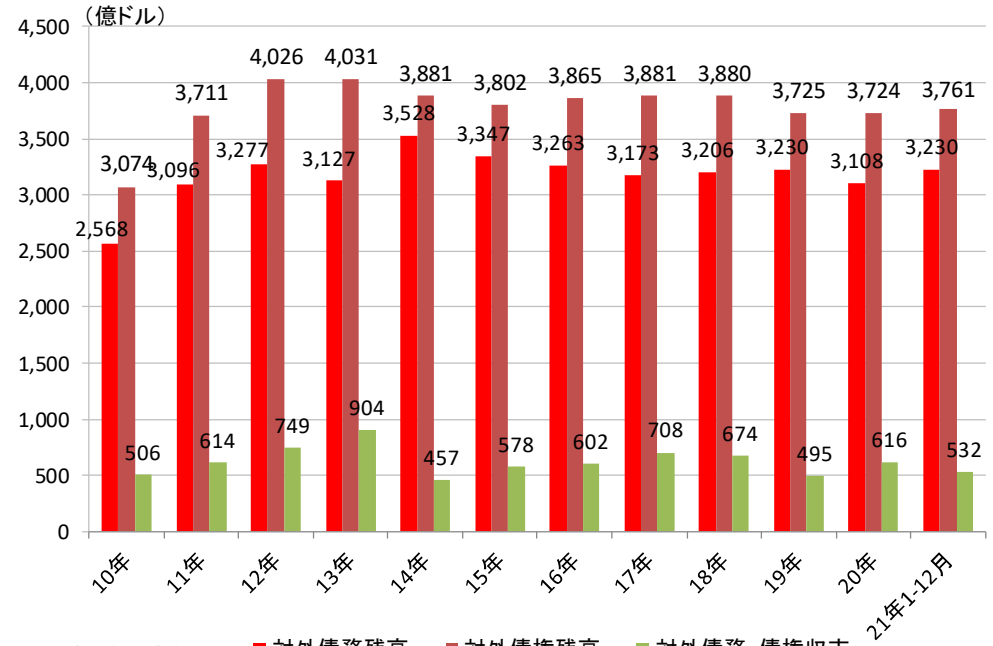
（出典）伯中央銀行

外国直接投資（資本参加分）流入額



（出典）伯中央銀行　※貸付は除く

対外債務・債権収支



（出典）伯中央銀行

為替・株価の推移

1月の為替市場は5.36～5.70レアル/ドルで推移。

月の前半は5.52～5.70レアル／ドルで推移。インフレ上昇幅の落ち着きや良好な経済指標等を背景に概ねレアル高傾向で推移した。

月の後半は5.52～5.36レアル／ドルで推移。地政学的リスクの高まりによるレアル安となる展開もあったものの、ルーラ元大統領の発言（中道右派との連立の可能性に言及）等を好感したほか、新興国市場への資本流入もみられ、概ねレアル高で推移した。

為替の推移（対米ドル）

（出典）伯中央銀行

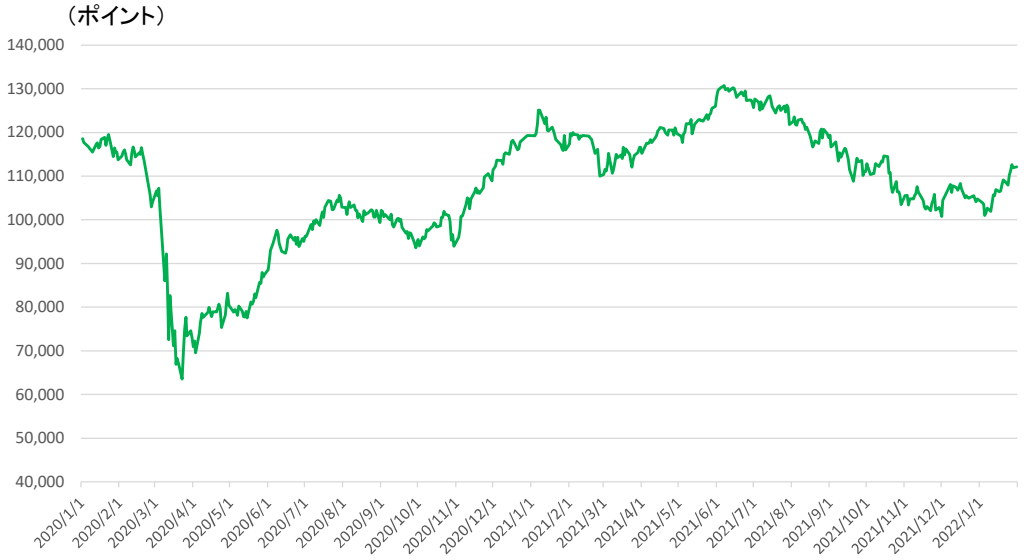
1月の株式市場は101,006～112,612ポイントで推移。

月の前半は101,006～106,928ポイントで推移。鉄鉱石価格の上昇等を背景に概ね上昇傾向となった。

月の後半は106,374～112,612で推移。月前半に引き続き鉄鉱石や原油価格の上昇や新興国市場への資本流入もみられ等を背景に概ね上昇傾向となった。

。

株価指数（Ibovespa）の推移

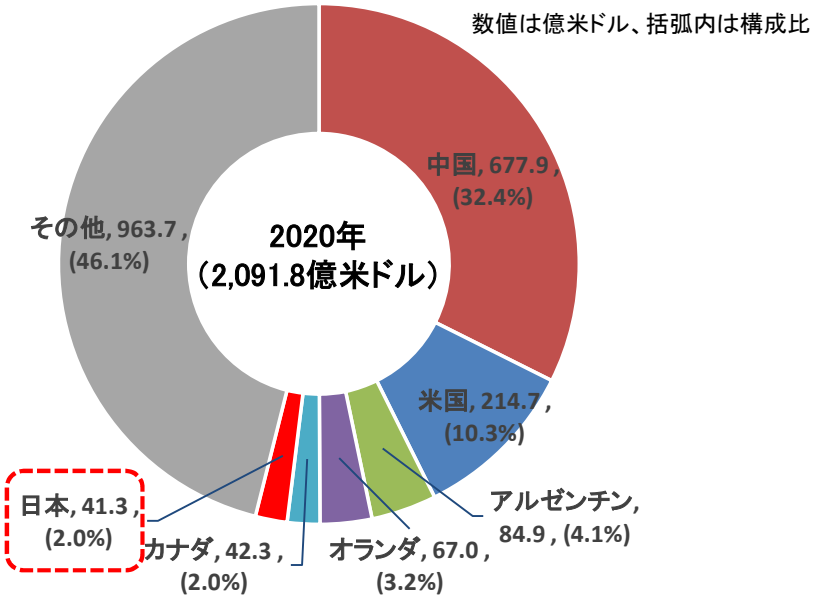


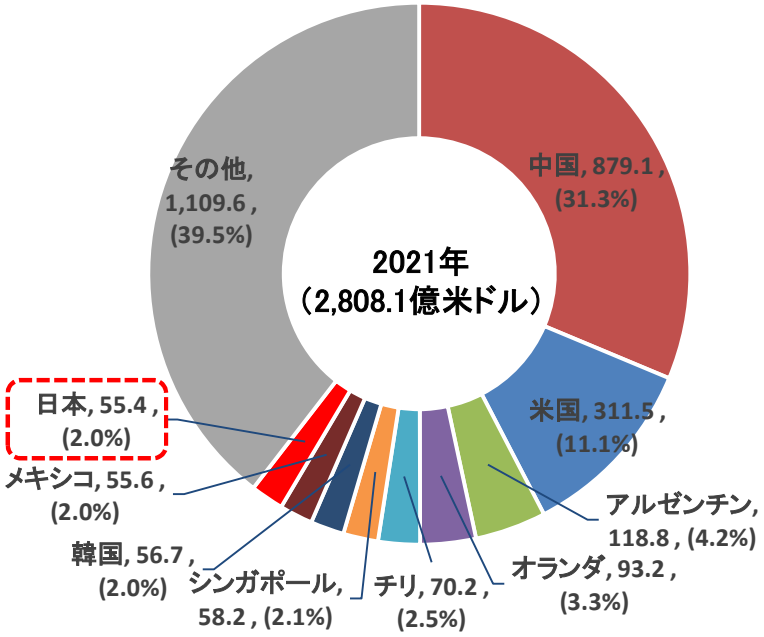
（出典）B3

Ⅲ. 貿易動向

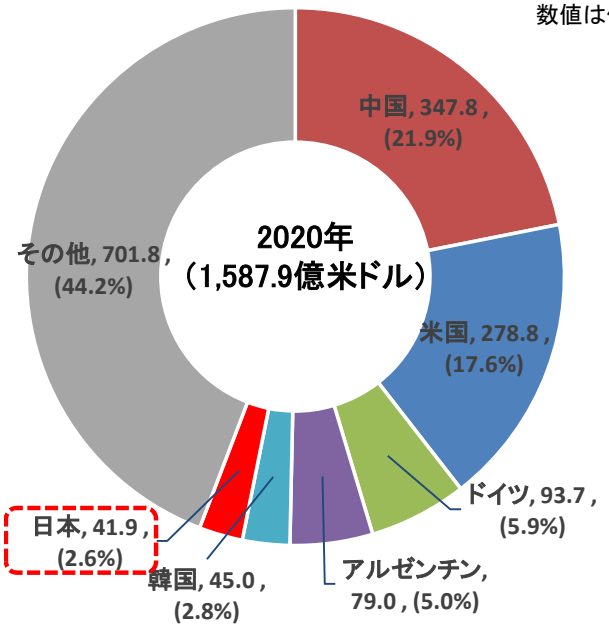
ブラジルの貿易は、輸出、輸入ともに中国、米国、アルゼンチンが上位に占めている。2021年においては、日本は貿易相手国として輸出で9位、輸入でともに上位8位となっている。

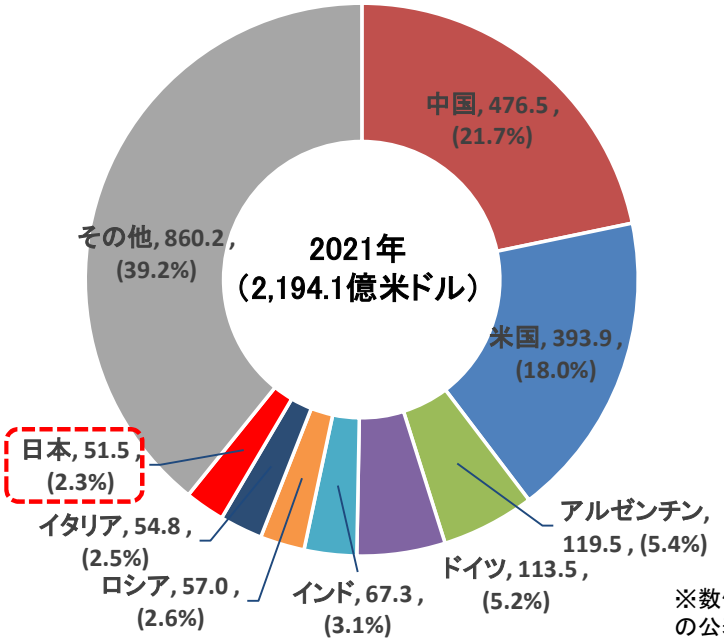
輸出額と構成比（国別）





輸入額と構成比（国別）

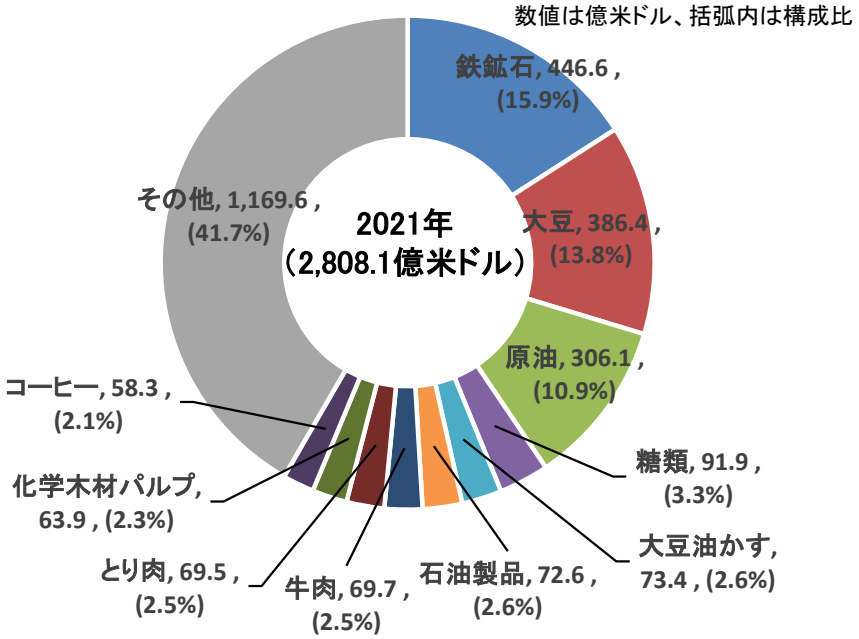




（出典）伯経済省
※数値は2022年2月時点の公表値から算出

主要輸出品目は資源（鉄鋼石、原油等）、食品（大豆、肉類、糖類等）。主要輸入品目は石油製品、自動車部分品を中心に、電気機器や医療用品など幅広い品目にわたっている。

ブラジルの主要輸出品目と主要相手国



【鉄鋼石】

		億米ドル	構成比（%）
	全　体	446.6	100.0
①	中国	288.4	64.6
②	マレーシア	28.6	6.4
③	バーレーン	17.9	4.0
④	日本	17.9	4.0
⑤	オマーン	13.0	2.9

【大豆】

		億米ドル	構成比（%）
	全　体	386.4	100.0
①	中国	272.1	70.4
②	スペイン	16.7	4.3
③	タイ	12.9	3.3
④	オランダ	12.0	3.1
⑤	トルコ	10.1	2.6

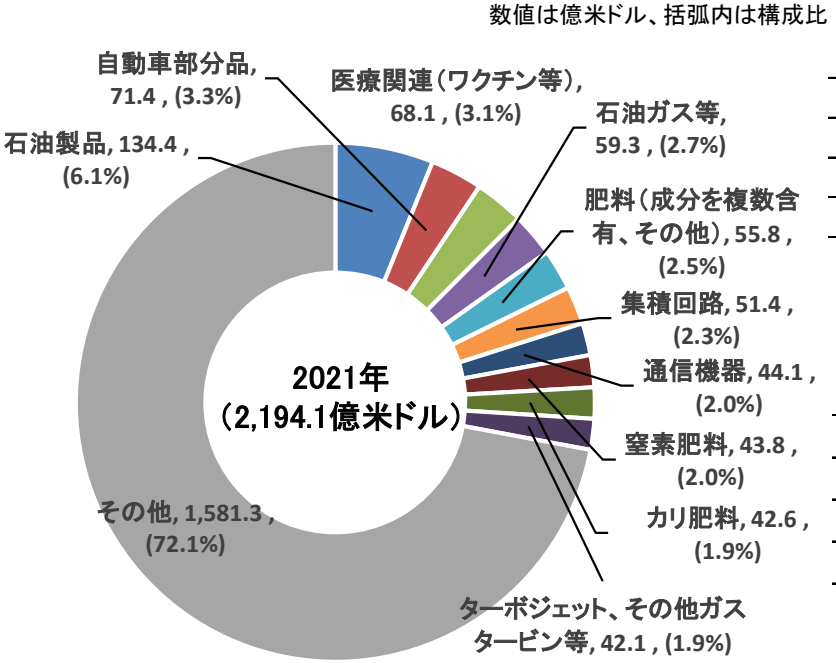
【原油】

		億米ドル	構成比（%）
	全　体	306.1	100.0
①	中国	142.5	46.6
②	米国	30.8	10.1
③	インド	22.4	7.3
④	チリ	19.6	6.4
⑤	ポルトガル	16.3	5.3

【糖類】

		億米ドル	構成比（%）
	全　体	91.9	100.0
①	中国	14.1	15.4
②	アルジェリア	7.8	8.4
③	ナイジェリア	6.0	6.5
④	バングラデシュ	5.8	6.3
⑤	カナダ	4.4	4.8

ブラジルの主要輸入品目と主要相手国



【石油製品】

		億米ドル	構成比（%）
	合　計	134.4	100.0
①	米国	74.4	55.4
②	インド	13.5	10.1
③	UAE	7.3	5.4
④	オランダ	6.4	4.7
⑤	スペイン	4.5	3.4

【自動車部分品】

		億米ドル	構成比（%）
	合　計	71.4	100.0
①	日本	9.3	13.1
②	中国	8.8	12.3
③	ドイツ	8.5	11.8
④	メキシコ	6.3	8.8
⑤	米国	5.8	8.1

医療用品（ワクチン等）

		億米ドル	構成比（%）
	合　計	68.1	100.0
①	米国	23.7	34.9
②	中国	12.9	19.0
③	ベルギー	7.8	11.4
④	スイス	5.3	7.8
⑤	ドイツ	4.1	6.0

【石油ガス等】

		億米ドル	構成比（%）
	合　計	59.3	100.0
①	米国	41.8	70.5
②	ボリビア	12.1	20.3
③	アルゼンチン	2.8	4.7
④	トリニダードトバゴ	1.5	2.5
⑤	アンゴラ	0.5	0.8

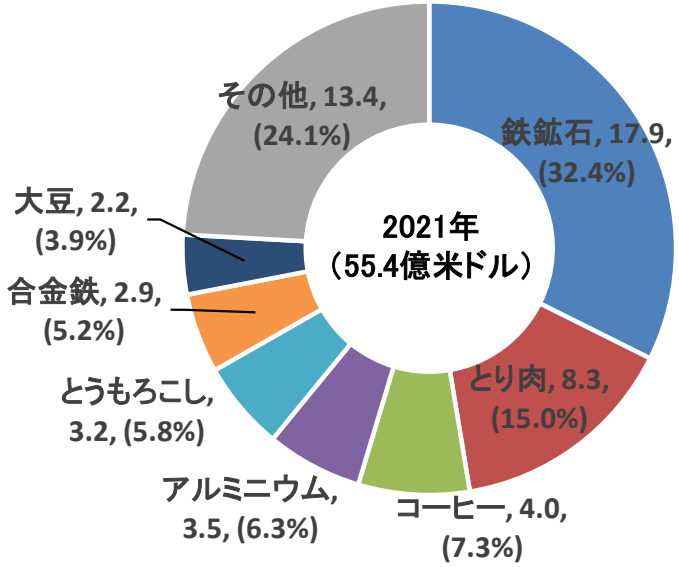
（出典）伯経済省　※数値は2022年2月時点の公表値から算出

対日貿易

対日貿易においては、主要輸出品目は資源（鉄鉱石、アルミニウム等）や食品（肉類、コーヒー、トウモロコシ、大豆等）、主要輸入品目は自動車関連が中心となっている。

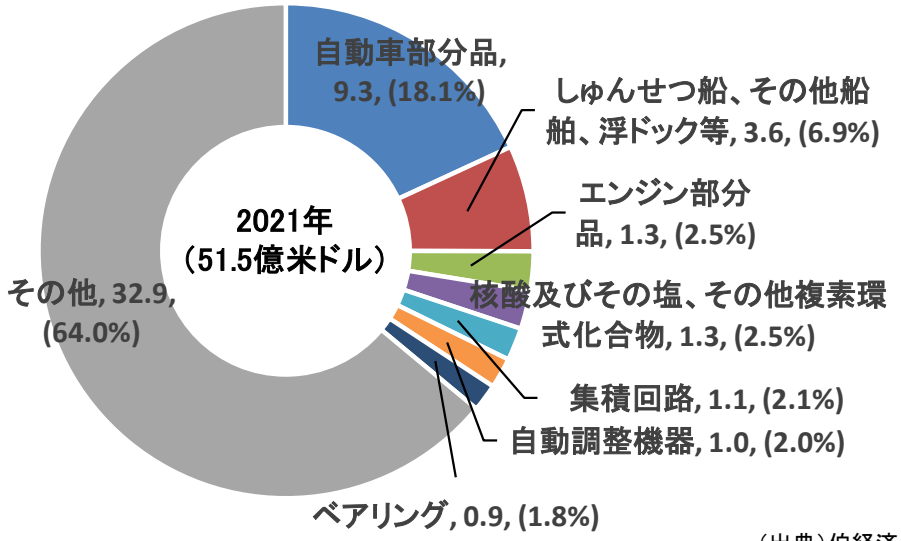
ブラジルの対日本主要輸出品目

数値は億米ドル、括弧内は構成比



ブラジルの対日本主要輸入品目

数値は億米ドル、括弧内は構成比



（出典）伯経済省
※数値は2022年2月時点の公表値から算出

ブラジルの対日本主要輸出品目の日本側から見たブラジルの構成比（2021年）

【鉄鉱石】

	億円	構成比（%）
総計	19,656.0	100.0
① オーストラリア	10,854.7	55.2
② ブラジル	5,592.5	28.5
③ カナダ	1,385.4	7.0
④ 南アフリカ共和国	715.1	3.6
⑤ アメリカ合衆国	275.9	1.4

【とり肉】

	億円	構成比（%）
総計	1,365.9	100.0
① ブラジル	889.5	65.1
② タイ	407.9	29.9
③ アメリカ合衆国	32.6	2.4
④ ハンガリー	15.9	1.2
⑤ フランス	10.6	0.8

【コーヒー】

	億円	構成比（%）
総計	1,447.3	100.0
① ブラジル	446.9	30.9
② コロンビア	228.8	15.8
③ ベトナム	200.7	13.9
④ グアテマラ	101.1	7.0
⑤ エチオピア	79.3	5.5

【アルミニウム】

	億円	構成比（%）
総計	6,836.6	100.0
① ロシア	1,357.5	19.9
② オーストラリア	1,120.3	16.4
③ アラブ首長国連邦	1,088.7	15.9
④ ニュージーランド	425.2	6.2
⑤ ブラジル	382.8	5.6

【とうもろこし】

	億円	構成比（%）
総計	5,199.6	100.0
① アメリカ合衆国	3,779.6	72.7
② ブラジル	738.9	14.2
③ アルゼンチン	416.2	8.0
④ 南アフリカ共和国	242.6	4.7
⑤ フランス	8.8	0.2

【合金鉄】

	億円	構成比（%）
総計	3,134.2	100.0
① カザフスタン	657.4	21.0
② 中華人民共和国	453.4	14.5
③ ロシア	396.0	12.6
④ ブラジル	339.6	10.8
⑤ 南アフリカ共和国	307.7	9.8

【大豆】

	億円	構成比（%）
総計	2276.9	100.0
① アメリカ合衆国	1702.9	74.8
② ブラジル	320.2	14.1
③ カナダ	226.0	9.9
④ 中華人民共和国	26.2	1.1
⑤ ロシア	1.5	0.1

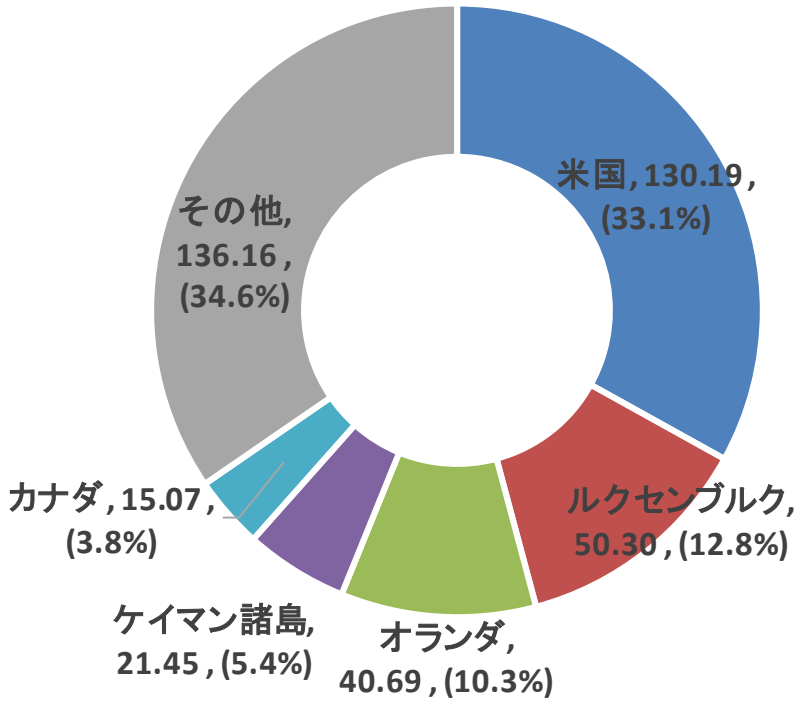
※日伯ともにHS番号4桁の数値。鉄鉱石2601、とうもろこし1005、とり肉0207、コーヒー0901、アルミニウム7601、合金鉄（フェロアロイ）7202、大豆1201

（出典）財務省（日本）
※数値は2022年1月末時点の公表値から算出

Ⅳ. 日伯投資

対ブラジル直接投資（資本参加分）の国別構成比
総額393.86億ドル（2021年）

数値は億米ドル、括弧内は構成比

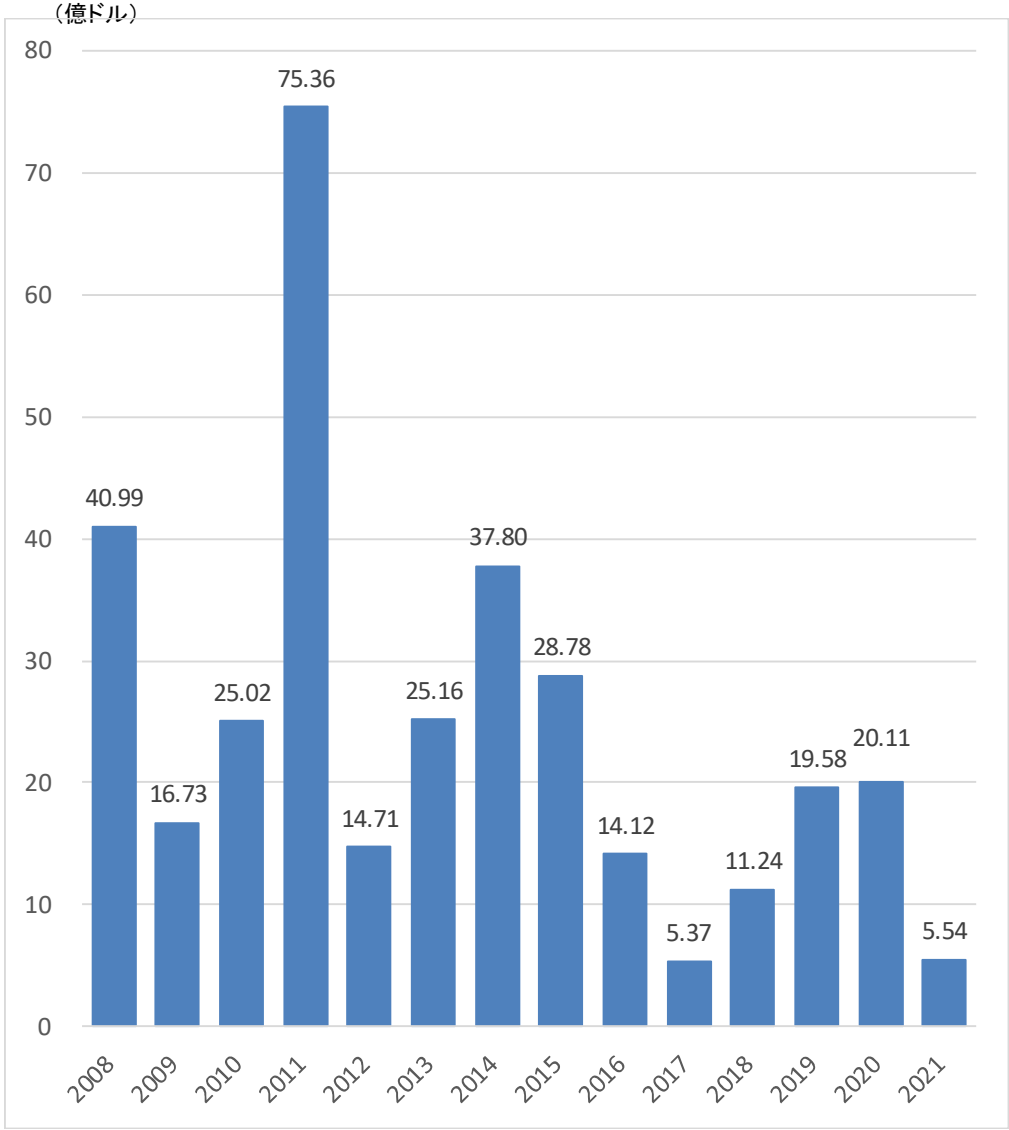


（出典）伯中央銀行

2021年の日本の直接投資額（資本参加分）は5.54億ドルで構成比は1.41%と、17番目の規模。

※ 中国：2.35億ドル（0.44%）。但し、第三国経由の投資額が含まれていないため、実際よりも少ない数値となっている。

日本の対ブラジル直接投資（資本参加分）の推移



（出典）伯中央銀行